

暮らし

質問

49歳の女性です。内視鏡検査で、上行結腸というところの粘膜下層まで浸されたがんが見つかりました。CTでは、リンパ節転移ははっきりしていません。早期がんではありますが内視鏡治療の適応とはならず、外科手術になると言われています。ただ、その方法には開腹手術と腹腔鏡下手術があると言われ、迷っています。傷口と手術後の痛みは腹腔鏡下手術の方が小さいと聞きましたが、手術の安全性や確実性はどちらが高いのでしょうか。手術後の外見も気になりますが、やはり、確実に治ることを望んでいます。選択するに当たってアドバイスをお願いします。



答え

日本には大腸がん治療ガイドライン(大腸がん研究会編)があり、全国の医師がそのガイドラインに基づいて治療を行っています。その中には、大腸がんに対する腹腔鏡下手術の適応について、詳細な記載があります。大腸がんに対する腹腔鏡下手



佐藤 宏彦

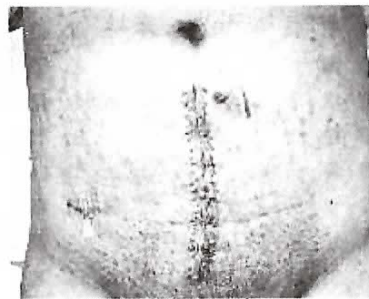
徳島大学病院消化器・移植外科

大腸がん手術方法で迷い

術は、日本では約15年前から導入され、2005年度版ガイドラインでは、ステージ0とIの早期大腸がん(がんの深さが腸管の筋層内にどまっただけ)にリンパ節転移のないもの)に対する外科的治療の一つとして認められていました。

しかし09年度版では、ステージ0とIという規制が外れ「がんの部位や進行度などのほかに、医師の経験や技量を考慮して適応を決めるべきだ」と改訂されています。すなわち、医師の技量に応じてステージIIとIIIの進行した大腸がん(がんが腸管の筋層を越えて深く入っている、あるいはリンパ節転移があるなど)への適応拡大も可能というのです。

日本より早く腹腔鏡下大腸がん手術が導入された欧米では、結腸がんに対する腹腔鏡下手術の有用性が検討され、開腹手術に比べて腸管運動の回復や入院期間などの短期成績の優越性、合併症発生率および再発率・生存率の同等性が多く報告されています。さらに最近では、進行がんにおいても長期成績が開腹

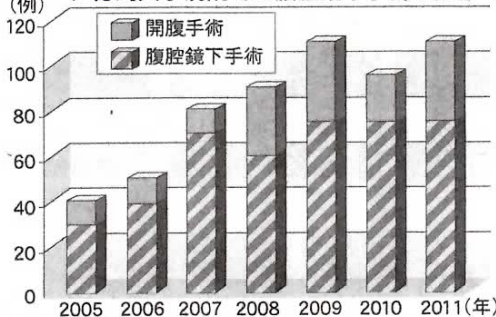


「腹腔鏡下」負担少なくて

その結果、徳島大学病院で

最後にありますが、治療方針を決定する際には、主治医とよく相談し、十分に納得した上で、治療を受けていただけたら幸いです。

徳島大学病院での腹腔鏡下手術の推移



腹腔鏡下手術は開腹手術のよう大きな傷あとは見られない(佐藤医師提供)

質問募集 がんに関する悩みに「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8572 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センター(電0898(633)(9438)でも平日午前8時半~午後5時に受け付けています。

徳島がん対策センター <http://www.toku-gantaisaku.jp/>



☆☆ 優しい孫 見守りたい ☆☆

と孫んろ甘 れ願前まい のきてほ花し一カ、ぼりおぶ品い 本よおま